

- 総務省では、2020年度からのプログラミング教育の必修化を通じて、ICTへの興味・関心を高めた児童生徒が、継続的・発展的に学ぶことができるように、企業や地域住民による学習機会の手法を確立し、先端ICT人材の育成を促進するべく、「地域ICTクラブ」の構築に取り組んでいる。
- 本部会においては、この地域ICTクラブが、新たな地域コミュニティの創出にも資するものであることから、
  - ・ 多様なモデル（多世代型、障害者支援型等）の構築  
→「メンター」の育成、他地域派遣、学校等との連携（人材、教材・ノウハウの共有）、児童館、公民館等との連携を含む。
  - ・ クラブの全国展開のあり方、普及展開手法  
について、「ガイドライン案」として取りまとめることとしている。

## 「ガイドラインの骨格」

### 0 地域ICTクラブの目的・役割

#### 1 地域ICTクラブの立上げ

##### ●立上げに必要な要素（ヒト、モノ、場所等）

主催者：ICTクラブを企画し関係者間の調整を行う者  
周知：自治体（教育委員会、学校）、新聞社等  
場所の提供者：学校、公民館、児童館、郵便局 等  
教材、メンター育成：プログラミング関係事業者 等  
メンター母体：地元企業、大学・専門学校等、自治会等  
のコミュニティ、高齢者向けPCクラブ 等  
その他：モデル毎に必要な知見とつながりを持つ者

##### ●円滑な立上げのポイント

- ・各地域でキーとなる人物・組織を巻き込むことが必要。
- ・関係する組織毎に、それぞれのメリットを示すことは有効。

#### 2 メンターの確保・育成

##### ●メンターに求められる素質・経験等

・児童生徒等とのコミュニケーションが重要。技術面で詳しい人が最低1名いると良い。

##### ●メンターの確保、育成のポイント

・募集時は、役割・求めるレベル・研修によって補える知識を明確にし、「できそう」というイメージを作ることが必要。  
・育成時は、コミュニケーションスキルを重視。未経験者へは技術的知識について付加的に実施。

#### 3 講座の設計～運営

##### ●学びの効果を高める講座設計や教材開発・確保のポイント

・地域ICTクラブ毎に、目指す姿を明確にしてから教材等を設定する。  
ex.初心者（プログラミングに親しむレベル）、課題解決、大会等への出品等。

##### ●学びの効果を高める講座運営のポイント

・プログラミングコンテスト等への出場等講座の目標・インセンティブを設定し、取組・継続意欲を高めることが効果的。  
・自立的・自発的に考えさせることが重要。  
・児童生徒等同士の教え合い・学び合いが効果的。

#### 4 地域ICTクラブの継続可能な運営のあり方

##### ●自立的な活動の継続を実現する運営体制等

・多様な団体からなる協議会を立ち上げるとともに、運営主体（組織）を明確化する。  
・資金・設備の確保手法。

#### 5 地域ICTクラブのタイプ別留意事項

##### 立上げ・運営のポイント

（参考）事例集